

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和 8年 3月 9日

コミュニティ名	小学校理科コミ
代表者所属名	長岡京市立長岡第四小学校
代表者職・氏名	教諭 椿華蓮

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

小学校理科コミ

2 研究テーマ

探究的な学びを支える主体的・対話的な授業づくりの実践研究

3 研究の目的

本コミュニティでは、小学校理科における探究的な学びを支える主体的・対話的な授業づくりについて、理論的理解を深めることを主たる目的として研究を進めた。特に、児童が観察・実験の結果をそのまま受け止め、事実を基に考察を行う学びの過程に着目し、結果と予想、既習内容との関係を踏まえながら思考を深めていく授業の在り方について検討した。こうした学習過程を重視することで、理科授業における探究の質を高めることを目指した。

また、理論的な学びにとどまることなく、研究で得られた視点を各自の授業実践に具体的に落とし込み、実際の授業改善につなげることを重視した。その過程を通して、教材研究の在り方や発問、学習活動の構成について見直しを図り、児童の思考を引き出す授業づくりを実践することで、個々の教員の専門性および授業力の向上につなげることを目的とした。

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

研究授業および事後研究会を軸とした継続的な協議を通して、教材研究に対するメンバーの意識に大きな変化が見られた。従来の「内容理解を中心とした教材研究」から、「児童が科学的に思考するために、教材がどのような役割を果たすのか」という視点へと研究の焦点が移行し、授業構成や発問、学習活動の工夫に反映されるようになった。

また、主体的・対話的な学びを成立させるために、「児童自身が問いをもつこと」や「結果を基に考察の質を高めていくこと」を授業設計の要点として位置付け、共通理解を図ることができた。これにより、探究的な学びを支える授業づくりについて、コミュニティとして方向性を共有することができた。

(2) 研究の課題

一方で、各自の実践を深めることに重点を置いた結果、研究成果を体系的に整理し、メンバー間で十分に共有する機会が当初の計画よりも限られた点は課題として挙げられる。そのため、校内全体への波及についても、さらなる工夫と計画的な取組が必要であると考えられる。

また、探究的な学びにおける「問いを見だし、継続的に追究していく力」や、対話的な学びにおける「他者との対話を通して考えを強化・深化させる力」については、一定の成果は見られるものの、なお発展途上であり、今後も実践を積み重ねながら研究を継続していく必要がある。

5 研究成果の波及方法

研究の成果については、校内研究会および乙訓地域の小学校教育研究会の二つの場において共有を行った。いずれの場においても、理科授業における探究的な学びの視点を中心に、授業における動機付けの方法や、観察・実験の結果を基にした考察の深め方について、具体的な実践事例を紹介した。特に、一時間の学習の中で、児童の動機付けが連続的に生まれ持続するような学習過程の構成や、考察場面における発問・板書構成の工夫について提案し、授業改善につながる視点を共有した。

校内においては、研究内容の共有にとどまらず、理科授業の構成の在り方や、理科の見方・考え方をどのように授業に生かすかについて伝達する研修を実施した。探究的な学びを支える授業設計の視点を整理し、具体的な実践と結び付けながら共有することで、授業改善への理解を深める機会とした。

さらに、公開授業という形で理論を実践として示す機会を設けた。実際の授業場面を通して、問いの設定や考察の深まりがどのように生まれるかを参観してもらい、その後の協議において意見を交流した。これにより、学習過程全体を見通した授業づくりについて理解を深め、授業改善につながる協議を行うことができた。

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
6月	第1回研究授業公開 講師 谷口和成先生（京都教育大学） 平山孝次先生（総括指導主事）	長岡第四小学校
8月	日本理科教育学会（富山大会）	富山大学
10月	第2回研究授業公開 講師 谷口和成先生（京都教育大学）	長岡第四小学校
11月	全国小学校理科研究協議会（愛知大会）	名古屋市立 なごや小学校
12月	勉強会 全国大会の報告会	Zoom
1月	校内伝達講習	長岡第四小学校
2月	第3回研究授業公開 講師 平山孝次先生（総括指導主事）	長岡第四小学校

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	問いの設定と考察の質を高める授業づくりの実践研究 —理科を起点とした探究的な学びの深化を目指して—
育てたい資質能力	<p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の中から問いを見いだす力 ・結果や事実を基に、根拠をもって考察する思考力 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考を引き出すための教材研究力 ・考察場面を意図的に設計し、学びを深める授業構成力

<p>実践又は研究の 具体的内容</p>	<p>本実践では、単元内の1時間を中心に、児童が学習の中から問いを見だし、観察・実験の結果を基に考察を深めていく過程を意図的に設計した授業づくりに取り組む。特に、問いが自然に立ち上がるような学習活動の配置や、段階的に思考を促す授業展開に重点を置き、児童が受動的に結果を受け取るのではなく、自らの思考として結果を意味付けていく姿を目指す。</p> <p>また、観察・実験の結果を考察につなげる場面は、児童にとって時間を要する学習過程であることから、考察場面を単なる振り返りに終わらせない工夫が重要であると考え。そこで、発問の工夫や板書構成、対話の場の設定を通して、結果と予想、既習内容との関係を結び付けながら考えを深める授業構成について研究を進める。</p> <p>研究の進め方としては、授業公開および参観を軸とし、授業者の教材観や授業設計の意図を事前に共有した上で実践を行い、事後研究会において児童の思考の実際を基に協議を行う。特に、「どの場面で児童の思考が深まったのか」「考察の質を高めるために有効であった手立ては何か」といった視点から協議を行うことで、授業改善に直結する研究とする。</p> <p>さらに、可能な範囲で複数回の授業公開や実践交流を行い、単発的な取組にとどまらず、継続的な共同研究へと発展させることを目指す。実践を積み重ねる中で得られた知見については、各校に持ち帰り授業改善に生かすとともに、地域の教育研究会等で共有することで、探究的な学びを支える授業づくりの広がりにつなげていきたい。</p>
--------------------------	--